



from Basel

## 精密なスイス時間

スイスと言えば、数々の有名な時計メーカーがある国とイメージされる方も多いかもしれません。資源に乏しかったスイスは、古くから金融、観光、精密機械といった高付加価値の産業に力を入れており、時計産業もその一角を担う形でスイスの経済を支えてきました。

毎年春頃、スイスのバーゼルで世界最大の時計見本市「バーゼルワールド」が開かれます。世界中から時計の生産者とバイヤーがバーゼルに集まり、最新トレンドの時計を目の前に、活気あふれる取り引きが行われます。

この時計産業と関係しているかどうかは定かではありませんが、スイスの人々は時間をきっちり守る国民性だと言われています。公共交通機関は正確なダイヤ運行であることが普通ですし、職場の会議な

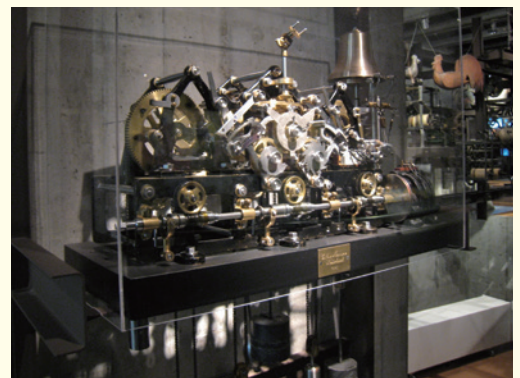


バーゼルにある国際決済銀行(BIS)の建物。各国の中央銀行・金融監督当局が世界の金融経済情勢や金融規制を議論しています。

どは、時間きっちり始めることが人々の共通意識(人によってはスイスとしての誇り)となっています。時間を守る感覚は国によってさまざまですが、スイスに移住してきた他国出身の人が会議に遅れてきたりすると、「君はまだ“スイス時間”に慣れていないね」と言われることもあります。

科学の実験などに使われる特殊な超精密時計の研究も進められていて、ベルンの研究所にある時計は3000万年たっても1秒すらずれない正確さだそうです。さすがに日常生活でそこまでの精密さは必要ありませんが、“スイス時間”は時間を守ろうという意識の高い日本人の感覚と近いですし、旅行者にとっても電車やトラムが時間通りに来るのはとてもありがたいことです。(国際決済銀行、バーゼル)

\*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



左/スイス西部にある世界遺産の街、ラ・ショー・ド・フォン。スイス時計産業と結びついた都市計画の下で発展しました。時計職人の工房が並んでおり、手元が明るい作業環境を作るため、全ての窓が南向きに配置され太陽光が十分に入っています。

上/ラ・ショー・ド・フォンにある「国際時計博物館」では、写真のような古い仕掛け時計から最新の衛星時計まで、時計に関する多くの展示品を見学することができます。